

## X I 総合看護研究施設

### 1 位置づけ

本研究施設は、1991年4月1日に設立された。設立の目的は、建学の精神に則り、看護の分野に関連する諸科学を科学的、技術的、総合的に研究し、看護の発展に寄与と貢献することである。

### 2 活動目標

この施設の目的は、本学の建学の精神にのっとり、看護の分野に関連する諸問題を科学的、技術的、総合的に研究し、看護の発展に寄与と貢献することである。(東海大学医療技術短期大学総合看護研究施設規定 第2条より) 活動目標としては以下の内容があげられる。

- ① 本学教員の看護研究活動推進に向け教員相互の研究的交流を支援する。
- ② 本学の発展に向け本学教員が取り組むプロジェクト研究を支援する。
- ③ 臨床看護の充実・研究活動の推進に向けて地域の看護職を対象とした研究支援活動を実施する。
- ④ 地域発展への社会貢献として住民の健康支援活動を実施する。
- ⑤ 看護学教育および臨床看護の充実に向け本学教員の産出した研究成果を公表する機会として論文集を発刊する。
- ⑥ 所員相互の連携を図り、目標達成に向け本学教職員の協力を得ながら活動を推進する。
- ⑦ 活動内容を評価し、その成果・改善点を次年度の運営に役立つよう活動報告としてまとめる。

### 3 組織

構 成 員	
所 長	望月 好子 (教授)
所 員	久保 典子 (准教授)、阿部 ケエ子・飯室 淳子・大貫 美奈子 (講師)、高本 征子 (助教)、井上 茂夫 (事務室係長)

### 4 施設概況

総合看護研究施設 (15 研) があり、総延べ面積は、施設面積約 30 m<sup>2</sup>である。主な設備は、コンピュータ (ノート型、インターネット利用可能) 2 台、カラーレーザープリンター 1 台、複合機プリンター 1 台、プロジェクタ 2 台、デジタルカメラ 2 台、ラミネーター 1 台、ビデオカメラ 2 台、ビデオカメラ用三脚 2 台、高速スキャン 1 台、書画カメラ (実物投影機) 1 台・取り付け型電子黒板ユニット 1 セット、60 型スクリーン 1 台である。図書・雑誌等は、図書館と連携し、図書館所蔵資料を活用している。

## 5 実施概要

次に、主な実施概要を示す。

### 1) 委員会開催状況

回	開催日時	議 題
1	4月9日(木) 10:30~12:00	① 報告事項 2013年度からの申し送り事項について ② 総合看護研究施設規程による本委員会の位置づけの確認 ③ 今年度の方針、活動目標、年間活動計画、役割分担 ④ その他
2	4月30日(水) 15:10~17:45	① 2014年度 活動計画について(各担当より活動計画案) ② 2013年度 決算報告 ③ 会議日程の確認 ④ その他
3	6月11日(水) 13:30~14:50	① 予算の配算について ② 各担当からの進捗状況報告 ・看護研究を支援する活動 ・研究をともに学ぶ会 ・公開講座A ・公開講座B ・プロジェクト研究 ③ 各活動支援教員について ④ 購入希望物品の把握について
4	8月7日(木) 13:30~15:00	① 各活動の進捗状況報告 ・研究をともに学ぶ会 ・公開講座A ・公開講座B ② 2015年度予算案について
公開講座A 実行委員会	8月21日(木) 14:30~16:00	8月22日(木)公開講座A 会場準備と打ち合わせ
5	9月24日(水) 15:10~16:30	① 各活動の進捗状況報告 ・公開講座A アンケート結果と評価 ・公開講座B 企画内容について ・研究をともに学ぶ会 ・論文集について
公開講座B 実行委員会	10月24日(金) 17:00~18:00	10月25日(土)公開講座B 会場準備と打ち合わせ
6	12月2日(火) 15:10~15:50	① 各活動の進捗状況報告 ・公開講座B アンケート結果と評価 ・研究をともに学ぶ会 ・論文集 ② 物品購入について
編集委員会	1月26日(月) 14:00~14:30	① 査読結果の確認 ② 論文集の編集方針について ③ 今後のスケジュールの確認・検討
7	3月18日(水) 10:00~11:30	① 年間活動総括 ② 次年度への引き継ぎ事項等 ③ その他 次年度の会議日程

## 2) 公開講座

## (1) 公開講座A 看護職者対象

月日/会場	テーマ	参加者数	担当者
8月22日(金) /東海大学 12号館3階305 コンピュータ室	看護研究に役立つエクセル講座 ー初級者編ー 講師:望月好子先生 (東海大学医療技術短期大学 教授)	55名	望月好子、久保典子 丹澤洋子、湊田明子 阿部ケエ子、飯室淳子 大貫美奈子、萱嶋美子 岩屋裕美、高本征子 端山淳子、井上茂夫 以上12名

## (2) 公開講座B 地域住民対象

月日/会場	テーマ	参加者数	担当者
10月25日(土) /東海大学医療 技術短期大学講 堂	加齢と健康生活 ーいつも元気に暮らすコツ!!ー 第1部: 講演「脳の活性化のはなし」 講師:灰田宗孝先生(本学学長・教授) 第2部:実践編 「脳を元気にさせるコツ!!」 ミニ講義とデモンストレーション 担当:飯室淳子(本学講師)	51名	望月好子、鈴木陽子 久保典子、吉野由美子 阿部ケエ子、飯室淳子 大貫美奈子、木村節子 蔵本文乃、高本征子 樋口貴子、井上茂夫 以上12名

## 3) 研究支援

## (1) プロジェクト研究

## A 採択状況

番号	研究代表者	研究分担者	テーマ(研究課題)	研究申請期間
14-01	丹澤洋子	千葉美果、湊田明子、 堀口ゆかり、文殊川由美、 飯沢正美、今瀬繁子	看護職離職者が再就職を果たし 継続している要因に関する研究	2013年度 ~2014年度
14-02	吉田礼子	内藤三恵子、磯みどり、 端山淳子	中堅看護師の全体性としての「看 護をする力」の発展	2014年度
14-03	樋口貴子	吉野由美子、大貫美奈子	総合病院救急外来に勤務する看 護師の精神障がい者に対する意 識の実態調査	2014年度 ~2015年度
14-04	吉野由美子	大貫美奈子、樋口貴子	精神看護学実習の事前学習に関 する調査	2014年度 ~2015年度
14-05	大貫美奈子	吉野由美子、樋口貴子	A短期大学における精神看護学 実習の支援環境の実態調査	2014年度 ~2015年度

## B 研究成果（論文・学会発表など）

テーマ	研究者	掲載誌・発表学会（開催地） [巻(号)、頁、年.月]	研究助成期間
基礎看護学実習で血圧測定時の効果的な指導方法について—学生ができたと認識する要因に焦点をあてて—	蔵本 文乃 千葉 美果 秋元 とし子 林 真理子	第 34 回 日本看護科学 学会学術集会講演集、 p. 565、2014. 11	2010 年度 ～2011 年度
看護技術教育におけるオンラインストレージ活用の効果	望月 好子 丹澤 洋子 澁田 明子 千葉 美果 坂本 優子 吉田 礼子	第 34 回 日本看護科学 学会学術集会講演集、 p. 402、2014. 11	2012 年度 ～2013 年度
基礎看護学実習における血圧測定時の戸惑いに対する指導方法の検討	蔵本 文乃 千葉 美果 秋元 とし子 林 真理子	東海大学医療技術短期 大学総合看護研究施設 論文集 24 号、p. 3-11、 2015. 3	2010 年度 ～2011 年度
「沐浴」の事前学習におけるソーシャルメディア活用の評価	望月 好子 丹澤 洋子 澁田 明子 千葉 美果 坂本 優子 吉田 礼子	東海大学医療技術短期 大学総合看護研究施設 論文集 24 号、p. 13-22、 2015. 3	2012 年度 ～2013 年度

## (2) 看護研究を支援する活動

神奈川県内 100 床以上の病院および東海大学医学部附属 4 病院に勤務する看護職者を支援対象として支援希望者およびグループを募集した。今年度は、10 件の応募があり、うち 2 件が昨年度からの継続研究であった。この 10 件の研究を支援した。研究支援期間は、2014 年 7 月から 2015 年 3 月までであり、1 回 1 時間程度の面接指導を 4 回、本学総合看護研究施設において実施した。途中、3 件の研究中止の申し出があった。

今年度、研究支援を担当した教員は次の 10 名であった。

吉田 礼子、中田 芳子、望月 好子、小川 景子、久保 典子、新村 直子、阿部 ケエ子、飯室 淳子、後藤 雪絵、千葉 美果

## (3) 「研究をともに学ぶ会」

今年度も昨年度同様、年度初めに日程をあらかじめ決定し、(2013 年度の研究をともに学ぶ会の実施状況を鑑み 5 回とした) 掲示した。日程および時間の設定は、原則総合看護研究施設所員会議のある日の夕方とし、1 回 1 時間程度で会を開催した。発表者は、教授会において募集し、個別に発表の交渉も行った。会の対象者は学内教員であり、参加は任意であるが、開催日の 1 週間前に会の日時、発表者、テーマについて掲示とメールにて全教員にお知らせした。実施した 5 回の参加者は、各回平均 10 名程度であり、発表者のプレゼンテーション後には活発な質疑が行えた。特に、第 5 回の「ヒトを対象とした研究計画における倫理的配慮について」の講演には、15 名以上の参加が得られ、2014 年 12 月に新たに新出された「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 文部科学

省「厚生労働省」に基づき、研究遂行過程における倫理的配慮について、あらためて学習する機会を得て、有意義な時間となった。しかし、毎回の発表者および話題提供者の積極的応募が少ないことも否めない。よって次年度は、FD 委員会や倫理委員会等ともコラボレーションしながら、教員の研究力向上に向けた取り組みを検討していきたい。

#### 4) 論文集の発行

2015 年 3 月 31 日、「東海大学医療技術短期大学総合看護研究施設論文集 第 24 号 2014 年度」を発行した。論文 2 題、総説 3 題、計 5 題が投稿受理され、発刊の運びとなった。

論文集作成にあたっては、年度初めに論文集発刊計画についてのタイムスケジュールを作成し、教員にメール連絡および掲示を行った。また論文提出後、短い期間での査読、修正、業者校正など煩雑なやり取りとなるため、投稿者および査読者には特に期限厳守での提出を依頼した。年度末発刊に向けては、非常にタイトなスケジュールであるため、投稿者および査読者の協力が不可欠である。今後も、編集スケジュールを綿密に計画立案し、投稿者の協力を得て進めていく。

## 6 評価・改善

具体的な活動内容として、今年度も引き続き、看護研究支援活動と地域貢献活動を実施した。本学教員のためのプロジェクト研究への支援については今年度予算を上回る申請があったが、「プロジェクト研究に関する取決め」に基づき審査し、助成金給付を決定した。今年度は 4 題のテーマを採択し、助成した。しかし、個人で取り組む研究にも助成してほしいという要望があるため、次年度は、プロジェクト研究助成のあり方を検討し、教員の研究活動を幅広く支援できるシステム作りにつなげていく必要がある。

また、2011 年度より発足した「研究をともに学ぶ会」は今年度 5 回開催した。各教員の研究力向上をめざし研究懇話会として実施しているが、発表者および話題提供者の応募が少ないことも否めない。よって次年度は、FD 委員会や倫理委員会等ともコラボレーションしながら、教員の研究力向上に向けた取り組みを検討していきたい。

地域貢献活動としては、地域の看護職への支援と地域住民への健康支援に関わる活動を実施した。地域の看護職への支援は、地域の中規模病院に勤務する看護職の研究力向上をめざし、公開講座の開催および研究指導であるが、特に公開講座は、エクセルを用いた統計処理・分析の講座として 2005 年度から開催しており好評を得て毎年開催している。今年度も受講者から良い評価を得たが、受講者のレディネスの違いが大きいことは否めず、一定の進行ペースを確保することが難しい。次年度は、対象をさらに初級（初心者）に限定し、レディネスを同質にできるように募集要項・ポスターなど工夫し、例年通りに複数の教員の協力を得ていく。

また研究指導は、病院・施設等に勤務する看護職者を対象に、受講者が設定した年度内の研究目標達成に向け指導を行い、研究者の主体的な研究活動を支援した。今年度は、10 件の応募があり、うち 2 件が昨年度からの継続研究であった。研究支援期間は、2014 年 7 月から 2015 年 3 月までであり、1 回 1 時間程度の面接指導を 4 回、本学総合看護研究施設において実施した。途中、3 件の研究支援中止の申し出があったことなどから、次年度は、応募条件を研究計画段階のものに絞りこみすることや、初回指導時に 4 回の指導についての約束事などを合意してもらうことなど、途中での支援中止にならないような検討が必要である。

一方地域住民への健康支援としては、地域住民に向けた公開講座を開催した。例年、参加者の平均年齢は高く、リピーターの存在もある。テーマは中高齢者の健康ニーズに合ったものとして、ここ数年は、本学灰田学長を講師に「認知症予防」を中心テーマとして設定し実施してきた。今年度も、同様に実施し、アンケート結果などから参加者の満足度も高く、地域住民の健康促進への活動

として貢献できたと考える。

地域住民向け公開講座の PR 活動の方法については、昨年度と同時期に近隣地区自治会に対して、例年通り各自治会会長経由あるいは公民館依頼で回覧板用チラシおよび掲示板用ポスターを配付した。また、近隣 3 市の広報誌への掲載依頼を行い、いずれも当初の希望時期より遅れた掲載であったが、秦野市と伊勢原市は広報誌へ掲載された。今年度は昨年度より早期に申込人数が定員に達したため、タウンニュース社への広告掲載は見合わせた。今後もこれらの媒体（タウンニュース社広告含む）を通しての広報活動は継続することが望ましいと思われる。

東海大学医療技術短期大学総合看護研究施設論文集発刊については、2015 年 3 月末日に発刊をめざし、論文の募集・査読依頼等を行った。投稿された原稿は、すべて査読を行い、査読結果を踏まえ本施設編集委員会にて審議し、掲載の可否の最終決定は本学総合研究機構運営委員である灰田学長が行った。今年度は、論文 2 題、総説 3 題、計 5 題が投稿受理され、発刊の運びとなった。今年度は、印刷業者の校正作業において連絡調整で苦慮する点があったため、次年度は校正作業について、業者への指示を的確に行うことが必要である。

最後に施設物品については、施設外利用可能なノート型 PC (Windows XP) の作動不良に伴い、新しいノート型 PC を購入した。今後も、教員の研究活動に本施設を有効活用してもらえるように、施設設備の整備・更新等を実施していく。